

日本音楽教育学会 ニュースレタ - 第9号

Japan Academic Society for Music Education: News Letter No.9 2002 9/11

目 次

第25回 ISME 世界大会 (SAMPEL) 報告	2
第5回アジア・パシフィック音楽教育シンポジウム (APSMER) のご案内	4
平成14年度第2回常任理事会報告	5
平成13年度大学院修士論文題目 (追加分)	7
住所・所属変更及び新入会員住所	7
編集後記	11

ISME 第25回大会報告

筒石賢昭（東京学芸大学）



1953年にベルギーのブリュッセルでISMEの第1回大会が開かれて以来、第25回大会がSAMSPÉLというメインテーマで本年8月11日から16日まで作曲家グリーグで知られるノルウェーの風光明媚な港町ベルゲンで開催された。ノルウェー語のSAMSPÉLは、「音楽や他の人類の活動で一緒に築きあげよう」という意味である。以下概要を簡単に報告したい。詳細は、参加者それぞれ分担して、次号の『音楽教育学』で報告する予定である。

今回は、ISMEの組織が過渡期を迎えていること、ノルウェーの物価高や、夏の旅行シーズンで航空券の入手困難等により、前回のカナダ・エドモントン大会よりは参会者が少なかった。しかしながら、新たな世紀を迎えて、音楽や音楽教育の望ましい未来のために協調しようという関係者の意気込みが感じられた大会であった。様々な論文発表や、ラウン

ドテーブル，ワークショップ等の他に，世界各国からのパフォーマンスグループの演奏や夜のジャズまで音楽や音楽教育に浸された6日間であった。大会プログラムによれば世界40カ国から研究発表者があり，日本からは日本音楽教育学会員，全日本音楽教育研究会員，一般，学生等約70名が参加した。

今回の大会は特に3つのテーマで焦点化して行われた。

領域Ⅰ SAMSPeL～国境や音楽文化を越えて

領域Ⅱ SAMSPeL～音楽教育と他の教科等を越えて

領域Ⅲ SAMSPeL～仮想と現実を越えて

それぞれの領域に関連して，L. プレスラー教授（米国イリノイ大学）他4名のキーノートスピーカーが講演した。

日本からの発表者とテーマは，すべて日本音楽教育学会の会員で以下の通りである。

・セッションペーパー論文発表

高須一（広島大学）

The musical Development of School Age Children in Japan: A Socio-cultural Approach following L. S. Vygotsky

・ラウンドテーブル

筒石賢昭（東京学芸大学）

Japanese and Western Musical Interaction in Japanese Textbooks

・パネルセッション

小川昌文（上越教育大学），奥忍（岡山大学），降矢美彌子（宮城教育大学）

The Past, Present and Future of Music Education in Japan

・ポスターセッション

水戸博道（宮城教育大学）

Performance of Transposed Keyboard by Absolute Pitch

南曜子（金城学院大学）

A Longitudinal Study: Why Do Young Children Sing Spontaneously?

小川容子（鳥取大学）

Effect of Strength of Rhythmic Beat on preferences of Young Music Listeners in Brazil, Greece, Japan, Portugal, and the United States

なお，毎回，本大会の前にそれぞれのコミッションによるプレセミナーも行われている。今回も，ヨーロッパ各地でプレセミナーが開かれ，数人の学会員がこれらのプレセミナーで企画・運営に携わったり，発表を行っている。

また，次回第26回大会は，2004年7月11日～16日まで大西洋上のスペイン領カナリア諸島テネリフェで開催される予定である。

第4回アジア・太平洋音楽教育学シンポジウム（香港大会）
研究発表者の募集について

The 4th Asia-Pacific Symposium on Music Education Research
Hong Kong / China July 9-12, 2003
Call for spoken papers and poster papers

第3回大会実行委員長 村尾忠廣

昨年、名古屋で開催されました「第3回アジア太平洋音楽教育学シンポジウム」に引き続き、第4回大会が以下のように開催されます。香港教育大学のスタッフを中心とした実行委員会の張りきりようから推して、この大会は、これまでにない規模で、充実した内容のものになることでしょう。ふるって、ご応募くださるようお願いもうしあげます。

主催：香港教育学院（大学）

後援：ISME リサーチ委員会

場所：香港，中国，香港教育学院（Hong Kong Institute of Education）

期日：2003年7月9日～12日

大会テーマ：Curriculum Innovation in Music（ただし、副主題がたくさん設定されており、どのようなテーマでもリサーチということであれば受けいれられます。）

基調講演：Lucy Green（UK），Gary McPherson（Australia），Xie Jia Xing（上海，中国），Peter Webster（USA）

研究発表申込締切：2002年10月31日（アブストラクト），2003年2月28日（完成原稿）

昨年は、ISME 前会長のJ. ドラモン会長の肝いりで、第1回 ISME 環太平洋音楽教育国際会議がニュージーランドで開催されました。しかし、御隣のオーストラリアからさえも主要な研究者は、名古屋の第3回アジア・太平洋音楽教育学シンポジウム大会の方に参加し、ニュージーランドには集らなかったようです。結局、「ISME 地域大会」という冠の大会は第2回大会を開催できず、消滅してしまいました。そのため、2003年のアジア太平洋地区の大会は ISME リサーチ委員会の後援する第4回アジア・太平洋音楽教育学シンポジウムのみの開催となります。

ところで、このシンポジウムの創設者の一人であるオーストラリアの G. McPherson が ISME リサーチ委員会委員でありながら、ISME 次期会長に選出されました。そのためもあって、このシンポジウムを ISME リサーチ委員会の恒常的な地区大会にしてはどうか、という話がもちあがっています。ISME リサーチセミナーは、わずか 26-30 名しか受け入れられませんし、しかも新規参入は 1/3 以下というサロンの組織運営となっています。この弊害を打破し、なおかつ J. カールセン、A. ベントリーたちが作りあげた「音楽教育の研究能力の向上の討論会」というリサーチセミナーの伝統を守ろうというのが、アジア・太平洋音楽教育学シンポジウムなのです。昨年、名古屋大会に参加された人はよくお

わかりでしょうが、非常にオープンな仕組みにしております。今回は、素晴らしい設備を誇る香港教育大学のキャンパス学生寮に全員合宿、文字通り寝食をともにしての大会で、これはリサーチセミナーの伝統でもありました。今回は台湾、東南アジアからも多数の参加が見込まれており、研究者の国際交流という意味からも非常に楽しみな会であります。

ふるって香港、香港教育大学の第4回アジア・太平洋音楽教育院ポジウムに参加いたしましょう。詳細は、以下の website をご覧ください。

<http://www.hkied.edu.hk/apsmer>

平成 14 年度第 2 回常任理事会報告

日時：平成 14 年 7 月 6 日 14:00 ~ 17:00

場所：東京学芸大学音楽講義室

【報告事項】

1. 会長諮問についての中間報告

1) 「第3次学会運営検討委員会」(藤沢委員長報告)

委員：藤沢章彦・奥忍・阪井恵・佐野

平成 14 年 6 月 30 日第 1 回の委員会が開かれ、以下の事が話し合われた。

会長諮問内容

(1) 役員任期について

・ 2 年間任期を 3 年間に替えたが、これが適切かどうか

(2) 地区割の理事の人数と選出方法について

・ 地区割り自体の妥当性はどうか
・ 理事選出の算定方法と人数はどうか(含む、投票用紙に記入する人数)

(3) 事務局のあり方

・ 事務局センター(外部機関)への業務委託はどうか
・ 現在の事務内容と、担当者の交代・継続の方法はどうか

(4) 会長選挙における候補者 1 名の場合について

・ 前回の方法でよいか、他に方法はあるか

会長の諮問内容を受けて、次のようなことについて調査・検討することになり、常任理事会(2002.7.6)にて報告し意見を聞いた。

(1) 役員任期について

・ 選挙回数を減らして経費を軽減することが理由の 1 つであったが、実際はどうか。

・ 大学教員等の人事異動が多くなっている。3 年では後任を決めることが増える。

・ 役員任期中の健康問題もある。

(2) 地区割の理事の人数と選出方法について

・ 選挙の実態から問題点を見直し、それをクリアする方法を考える。

・ 投票する(記名する)人数について、現在の関東地区のみ 3 名でそれ以外はすべて 1 名について見直す。

・ 全国からの選挙理事と、地区からの選挙理事を別に選出する方法について検討する。

・ 四国地区の会員が最も少ない。中国地区との合休はどうかを検討する。

・ 常任理事の人数と選出方法を見直す。

(3) 事務局のあり方

・ 事務局センター(外部機関)への業務委託は、現状ではきめ細かい対応が無理なこと、現在の学会備品や諸用品などの他への移動も困難なことから、新事務局事務所(ハイツシーダ)にて継続することとし、担当者のあり方(交代、継続、補助者など)について検討する。

(4) 会長選挙における候補者 1 名の場合について

・ 候補者が 1 名でも選挙とするか、信任投票の形にするか、その他の方法はあるかについて検討する。

以上の内容について、委員会で実態や問題点、他学会のようすなど調査し、以下の予定で進行する。

2002年11月の金城学院大学の大会前日理事会にて中間報告をし、その後の総会でも報告する。

2003年5月の理事会で最終答申をし、総会への原案を決定する。

11月の第34回大会（神戸大学：予定）総会にて審議・決定する。

2004年6月 会長・理事選挙

2) 「二種類の学会誌刊行に関する検討委員会」 (坪能委員報告)

委員：坪能由紀子・加藤富美子・安田寛

平成14年6月22日、7月5日に委員会が行われ、以下の事が話し合われた。

- ・委員会の名称（仮称）「新学会誌検討委員会」
- ・年間発行4冊の内2冊を何らかの形で実践に関わるものにしてはという案が出された。本の名称は今後検討を重ねる。また、編集委員会規程の変更が必要になる。

2. 第7回音楽教育ゼミナールについて（奥実行委員長報告）

7月5日全会員にプログラムを配布したこと等、現在までの進行状況が報告された。

3. ホームページ委員会（北山委員報告）

- ・例会等を盛況にするため情報をなるべく早く委員会に送って頂きたい。
- ・新入会員申し込みの推薦人を1名に出来ないかという要望が出された。今後検討し理事会にかけることとした。

【協議事項】

1. 第33回大会の運営について

- ・研究発表，プロジェクト研究

研究発表は56本の応募があり分野別・使用機器等を考慮し、1日目6会場24本、2日目6会場31本、ポスターセッション1本のグループに振り分けられた。

他に、シンポジウム・プロジェクト研究4本・ワークショップ3本を行う。

- ・愛知県教育委員会等の後援を受ける。
- ・大会プログラムのデザイン，レイアウトの見直しについて

大会プログラムのデザインを変えてはどうかという意見が会長から出され事務局が検討してみることとなった。

2. 新入会員，退会者の承認

- ・新入会員 正会員30名，学生会員1名，申し出退会者4名を承認。
- ・7月6日現在会員数1665名

3. 「30周年記念音楽教育事典」拡大編集委員からの報告と提案（筒石事務局長（代））

- ・各種機関の出版助成を申請して助成金を獲得し1冊分の定価を下げる事が出来れば最良である。
- ・出版助成の機関は、1)財団法人芸術研究振興財団、2)日本学術振興会、3)ロームミュージックファンデーションである。

4. その他（坪能副会長）

- ・学会主催の実践プロジェクトを今後、夏休みを中心に実施していきたい。対象は小・中校の現場教師と当学会会員にしたい。
- ・もう少し案を検討した上で理事会に提案してみることになった。

新入会員

3015 畑山美穂子	横浜国立大学院生
3016 會田 容子	上越教育大学
3017 斎藤 隆	上越教育大学院生
3018 公文 理恵	上越教育大学院生
3019 小暮 義隆	上越教育大学院生
3020 加藤 悟美	藤沢市立村岡小学校
3021 西岡 晃	財)ヤマ音楽振興会研究員
3022 音谷芙美子	東京芸術大学院生
3023 大賀ほだか	埼玉大学院生
3024 森口 麻里	岡山大学院生
3025 孟 艶	岡山大学院生
3026 村上 壘	岡山大学院生
3027 貝原 緩子	岡山大学院生
3028 下山 陽子	岡山大学院生
3029 清田 恭子	岡山大学院生
3030 作田由美子	岡山大学院生
3031 若井 健司	香川大学
3032 大川 敦子	岩手大学院生
3033 大場 智果	岩手大学院生
3034 佐々木 唯	鳥取大学院生
3035 宮川 史枝	長野市立城東小学校
3036 多田 舞	岐阜聖徳学園大学院生
3037 大久保友喬	長崎日本大学学園
3038 岡田 直子	土佐市立高岡第二小学校

3039	山中知佐乃	高知大学院生	申し出退会者		
3040	西川 陽子	名古屋音楽大学院生	1746	河口真朱美	N H K
3041	鳶 研一朗	福岡教育大学院生	2331	川井 弘子	福山大学
3042	小長野隆太	福岡教育大学院生	2196	真田 守計	金沢大学
3043	柴田 礼	聖和大学	1605	黒瀬 久子	下関女子短大学
3044	豊島久美子	奈良教育大学院生			
学生会員					
B-46	高田 清司	大阪外国語大学			

平成 13 年度大学院修士論文題目（追加分）

岩手大学

浅沼 友絵	音楽づくりを重視した中学校音楽科カリキュラムの研究 ～教科書及びイギリスのナショナルカリキュラムとの比較を通して～
石岡 裕子	総合的な学習の時間を用いた創作音楽劇に関する一考察 ～地域の特色を生かした宮古西中学校の『歌舞劇』の実践を通して～
鈴木 康之	うつ病者に対する音楽療法の実践に関する研究
山田 恵子	松本民之助の日本歌曲に関する一考察 ～日本語に対する作曲家の主張と演奏家の認識～
崔 日昇	中国と日本の学校制度と音楽教育 ～比較研究による改革私案～

住所・所属変更及び新入会員住所（7月承認まで）

2000年度版 No.6 8月15日現在

**ニュースレターweb版では
個人情報に関する記事は削除しています。**

ニュースレターweb版では 個人情報に関する記事は削除しています。

----- 編集後記 -----

ニュースレター9号の編集は、ISME SAMSPELL (Bergen) 大会と「くらしきゼミナール」の合間の時期になりました。編集作業は、まだ頭の中にノルウェイの余韻を響かせながら、来年度ホンコンで開催される APSMER の予告を扱い、目と手は日本の「生涯 学習時代の音楽教育」に向ける、という状態で行いました。学会自体も「常任理事会報告」に記載されているように、運営についてさまざまな検討が行われています。本年度の全国学会、金城大会でも「院生フォーラム」など新しい企画が見られます。ニュースレターが、刻々と動いていく音楽教育界の空気を学会員にすばやくお届けできるよう努力をしたいと考えています。(奥忍)

教育学部の改組だの独立行政法人化への対応だのと会議のスケジュールに追われる毎日、今日だけは「くらしきゼミナール」のプレゼン資料の最終チェックにと空けておいたにもかかわらず、突然「ニュースレターの版下を明日までに印刷所に送るように」との指示。まる一日を費やしてなんとか完成させはしたものの、やはりどこかにオチがあるような気がしてならない。さて、そのオチは倉敷のプレゼンに出るか、それともニュースレターに出るか。とにかく、明日は倉敷に行かなければならない。・・・切迫感もここまで来ると快感に変わる今日この頃です。(北山)

日本音楽教育学会 役員 (2002~2004年度)

会長：村尾忠廣 副会長：平井建二・坪能由紀子

常任理事：筒石賢昭(事務局長)、奥忍・藤沢章彦・北山敦康(総務)、

加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋(企画)重嶋博・杉江淑子(会計)

地区代表理事：浅井良之(北海道)、丸林実千代(東北)、藤沢章彦(関東)、

伊野義博(北陸)、南曜子(東海)、中原昭哉(近畿)、野波健彦(中国)、

田邊隆(四国)、木村次宏(九州)

【事務局住所】184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102

【私 書 箱】184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26

Tel/Fax 042-381-3562 E-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

<http://www.remus.dti.ne.jp/onkyoiku/index.html>